

令和7（2025）年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部 経済学科	1
経済学部 税務会計学科	2
経済学部 国際経済学科	3
人間文化学部 人間文化学科	4
人間文化学部 心理学科	6
人間文化学部 メディア・映像学科	8
工学部 電気電子工学科	9
工学部 建築学科	10
工学部 情報工学科	11
工学部 機械システム工学科	12
生命工学部 生物科学科	14
生命工学部 健康栄養科学科	16
生命工学部 海洋生物科学科	18
薬学部	20

経済学部 経済学科

■ 担当者氏名

(代表) 田中 征史

林田 元就、三川 敦、石丸 敬二、李 森、中村 和裕、野田 光太郎、
村松 悠次、助田 暁、高羅 ひとみ、山下 陽平、善野 吉博、戸村 貴史、崔 崐汀

■ ゼミ数、ゼミの学生数

令和7年度新入生167名を、学生番号順に14クラスに分割し、1クラスあたりの学生数は11～12名で実施した。

■ 実施内容

本科目では、初年次教育として新入生が大学での学習にスムーズに移行できることを目的としており、Cerezoでのレポート提出やOutlookのメールの送信などの実習、レポートの書き方の実習のほか、資格検定試験の対策講座やグループワークなどを行った。

【クラス担任別の実施内容】

- ・Cerezoを使ったレポート提出の実習、Outlookを使ったメール送信の実習（2回、対面）
- ・グループワーク（3回、対面）
- ・学習指導を含むガイダンス等（6回、対面）

【受講生全体での実施内容】

- ・ビジネス能力検定対策講座（16回、対面）
- ・レポートの書き方講座（3回、対面）

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として実施している「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境の移行を円滑にするための学習スキルを身につけ、学習意欲の向上にも一定の効果を上げている。学生が円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報の習得を重視しており、大学生活全体を通じて資格取得を促進することを目的に、教養ゼミ内でビジネス能力検定試験の対策講座も実施している。さらに、レポート作成の演習を通じて、基礎的なライティングスキルの向上も図っている。

■ 成果

令和7年度経済学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・ビジネス能力検定3級合格者が110名（昨年度は125名）、2級合格者が66名（昨年度は79名）と昨年度に比べやや減少したものの、一定の成果を示す結果となった。初年次学生のビジネス知識の習得や資格取得への意識向上につながる取り組みとして高い成果をあげることができた。
- ・クラス担任別の対面授業回にグループワークを行い、最終的には、プレゼン発表を行うという授業を導入した。グループ内でリーダーを中心に協議や作業分担を行い、プレゼン発表をさせるといふ、新入生にはやや難易度の高い授業内容であったが、アクティブラーニングとしての学習効果も高く、新入生の熱心な取り組みが見られた。

■ 課題

- ・本科目は通年科目として実施しているが、後期から数名の学生の出席率が大きく低下した。クラス担任別でゼミを実施できている利点を生かし、学習意欲が低下している学生のサポート体制を強化できるような運用の改善が必要である。

■ 担当者氏名

(代表) ビセット・イアン・ジェームス、
呉 青姫、佐野 穂先

■ ゼミの学生数

23 名 (うち留学生 7 名)

■ 実施内容

1 年次教育プログラムの一環として、私たちは学生が高校から大学への移行をスムーズに行えるよう支援することに焦点を当てました。これは、彼らの教育経験における重要な転機であることを認識していたからです。また、学生が各学期ごとに目標を設定し、進捗を振り返ることで、大学生活を有意義に過ごすための目的意識を持てるよう支援しました。地元企業との就職懇談会で、「コミュニケーション能力」が学生に最も求められるスキルであるというフィードバックを受けたことを踏まえ、「コミュニケーション能力」を向上させるための活動を導入しました。さらに、学生が大学での学業や将来のキャリアにおいて必要となる基本的な学業スキルやその他のスキルを習得できるよう支援しました。これらのスキルは、以下の通り分類されました：学生用ツール：電子メールの使い方及び正しいメールの書き方

学生用ツール 1：大学での勉強方法（図書館の利用方法など）

学生用ツール 2：プレゼンテーションの方法と、英語と日本語の資料の作成方法

学生用ツール 3：小論文の書き方、Microsoft word を使った正しい出典の引用方法

学生用ツール 4：Microsoft excel の簡単な分析モデル

学生用ツール 5：三蔵祭に向けて、テーマを設定の上、プレゼンテーション資料を作成、発表

■ 教養ゼミの特

徴

広い視野と実践能力を持ち、会計学や経営学を十分に理解し活用できる人材を育成することを目指している。教養ゼミでは、各自が充実した大学生活を送り、卒業後は社会で広く活躍できる人材となれるよう、大学生活を送るための学習支援や大学内の各施設の利用案内等を実施する。

■ 成果

学生たちの教員とのコミュニケーション能力（メールのマナーなど）が向上しました。さらに、グループワークやコミュニケーションを重視することで、学生たちが頻繁に協力し合い、支え合うようなコミュニティのような雰囲気が醸成されました。

■ 課題

おそらく、過去の学生に比べて学力がやや低い学生グループだったためか、過去の学生ならより容易にこなせた課題の一部でも、学生たちは時折苦戦する場面が見られました。そこで学科として、これらの学生が R8 の基礎セミナーに移行する際、鈴木先生に同行していただき、環境への適応を促すことにしました。

経済学部 税務会計学科

■ 担当者氏名

(代表) 堀田彩

■ ゼミ数, ゼミの学生数

48 名

■ 教養ゼミの特徴

- ・ 授業の実施とともに、3 人の担任や教務委員による学生へのきめ細かい指導とサポートを行う点

■ 授業のねらい

学生の学力・能力の向上のための基盤を、以下により構築する。

- ・ 1 年次生が教員全員と顔を合わせるとともに、お互いに交流を深める。
- ・ 安全に安心して学校生活を送れるようにサポートする。
- ・ 大学における学修への動機付けを高める。
- ・ 資格取得にチャレンジし、各自が自信を持てるようにする。
- ・ 卒業後の進路など、自身のキャリアについて考える機会を提供する。

■ 実施内容

- ・ 大学における学修方法の指導（履修指導、講義の受け方、セレッソの使い方など）
- ・ 図書館ならびに図書館ホームページの利用方法の紹介（データベースへのアクセス方法など）
- ・ 税務会計学科の紹介（教員、授業、コースなど）
- ・ ビジネス能力検定対策講座の実施
- ・ 教養講座受講のアナウンスと出席報告
- ・ 自己紹介やグループディスカッションによる学生間の交流促進
- ・ 大学生活で起こりがちなトラブルに関する注意喚起（詐欺や薬物、宗教の勧誘などの被害防止）
- ・ 学生生活上の困りごととその解決について考えるグループワークとプレゼンテーションの実施
- ・ コミュニケーション・スキルの向上のための訓練（傾聴とディスカッションの実践）
- ・ 大学生活やキャリアに関する質問への回答

■ 成果

- ・ 教員と学生の交流が深まったことで学生の困っていることに対応できた。
- ・ 著しい単位取得不足、成績不良に陥る者への対応ができた(退学者 2 名に対する対応については、担当教員による話し合いがもたれ、学生や保護者の納得や理解が得られた)。
- ・ ビジネス能力検定を積極的に受検し、複数の学生は 2, 3 級同時合格を果たした。

■ 課題

- ・ 説教的な学生とそうでない学生に対しフォローに濃淡が出た。この点を課題として検討する必要があると考えられる。まずは、教養ゼミの時間帯以外でも担任教員が積極的に学生たちとコミュニケーションを図り実情を把握する必要があるだろう。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 市原 晋平

■ ゼミ数, ゼミの学生数

全1年次生 53名

■ 授業のねらい

- (1) 1年次生が教員全員と顔を合わせるとともに、お互いに交流を深める。
- (2) 大学における学修への動機付けを高める。
- (3) 卒業時の到達目標を明確に意識することで、自分に自信を持つ。

■ 学修の到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

＊コミュニケーション能力の基礎となる力：聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自らの考えを表現する、プレゼンテーションする力など。

■ 実施内容

- (1) 1年次生を3班に分け、学科教員がオムニバスの授業を行った。
但し、第2回と3回は2班で、第1、4、12回は全員で実施した。
- (2) 各教員の講義に先立ち、セレッソを通じて事前学習用の資料を配布した。また講義中には、配布資料をふまえた考察や発言の機会を設けた。さらに、期末レポートの執筆や受講者の思考をより深めるための参考文献も提示した。
- (3) 各教員のテーマは下記の通りである。
 - ・重迫 「韻数文解：詩の言葉を分析する」
 - ・原 「記憶の文化」
 - ・清水 「祈りの行動学」
 - ・柳川 「味覚の歴史を考える」
 - ・古内 「建築で見る日本古代史—日本建築の源流を追って—」
 - ・岩崎 「ちょっと気になる不思議な日本語」
 - ・市原 「ベニョフスキの冒険—近世グローバルヒストリーの一コマ—」
 - ・両角 「社会科・地理歴史科授業はどのような課題に直面し、いかに乗り越えてきたのか」
 - ・奥村 「文学は記録する——岡田(永代)美知代の描いた神田の大火——」
- (4) 講義計画
 - 第1回 (4/17) ガイダンスと研究倫理教育
 - 第2回 (4/24) 図書館／学生相談室のガイダンス
 - 第3回 (5/1) 図書館／学生相談室のガイダンス
 - 第4回 (5/8) 新入生歓迎レクリエーション
 - 第5回 (5/17) 予備日(振替授業：土曜日)

- 第 6 回 (5/22) オムニバス講義① (市原、古内、岩崎)
- 第 7 回 (5/29) オムニバス講義① (市原、古内、岩崎)
- 第 8 回 (6/5) オムニバス講義① (市原、古内、岩崎)
- 第 9 回 (6/12) オムニバス講義② (清水、柳川、両角)
- 第 10 回 (6/19) オムニバス講義② (清水、柳川、両角)
- 第 11 回 (6/26) オムニバス講義② (清水、柳川、両角)
- 第 12 回 (7/3) 学期末レポート課題ガイダンスほか (市原)
- 第 13 回 (7/10) オムニバス講義③ (原、重迫、奥村)
- 第 14 回 (7/17) オムニバス講義③ (原、重迫、奥村)
- 第 15 回 (7/24) オムニバス講義③ (原、重迫、奥村)

(5) 評価

各講義に関するコメントシートの提出に加え、期末レポートを課した。課題は、「授業全体を通じて関心を抱いた、あるいは考えたことをまとめる。その際、授業中に紹介された文献、あるいは自分で調査した参考文献を用いること」とした。

■ 教養ゼミの成果

セレッソに提出された学生からのコメント、期末レポートの内容から、提出した学生については全員が到達目標に達した。採点については、学科教員が分担し、最終的には学科会議において教員全員で確認した。教養ゼミの枠内にとどまらず、その他の講義の内容とも結びつけて考察を深めた学生が複数いたことは大きな成果と考える。

■ 問題点、改善点、対応策

昨年度に引き続き、本年度はすべてのプログラムを対面で実施することができた。そのため学生と教員との間でコミュニケーションをとれたことは成果である。また 1 年次生に教員の研究の一端を紹介できたことも重要だった反面、学生の取り組みに大きな差異が認められたことは否定できない。欠席が目立つ学生、自主的に取り組む姿勢に欠ける学生へのフォローは次年度も課題であることを申し添えておきたい。

■ 担当者氏名 _____

大杉 朱美、赤澤 淳子、金平 希、山崎 理央

■ ゼミ数、ゼミの学生数 _____

ゼミ数4、各ゼミに19名の1年生が所属した。

■ 実施内容 _____

＜前期＞

- ピア・サポート訓練（教員+SA）
「自分自身について知ろう」、「話し合ってみよう」ワークの実施。
- レポート作成を学ぶ（教員）
レポートの書き方に関して講義。レポートとは何か、レポートを作成する際の注意点、アカデミックライティングのコツ、“コピペ”の禁止、メールの書き方、について解説した。また、履修生はこの講義に関する要約型レポートを提出した。
- 新入生歓迎会（2年生主催）
2年生が主体となってドッジボールを体育館にて実施。
- 保健管理センター学生相談の案内
- 図書館ガイダンス
- 保健所によるゲートキーパー研修会

＜後期＞

- スタディスキル（教員+SA）
文章要約の方法、論文の構成・読み方、論文の要約
- ビブリオバトル
個人で図書を一冊用意し、それについて、スライドを用いてグループ別に発表した。その後上位得点者が全体で発表した。
- コース制の説明（教員+SA）

■ 教養ゼミの成果 _____

【授業全般】

担任別の4つのゼミ個別での実施と、4ゼミ合同での実施の2形態を取り混ぜながらゼミを展開した。

前期は、ピア・サポート訓練（個別）、レポートの作成方法（合同）、学生相談に関するガイダンス（合同）、図書館ガイダンス（合同）、新入生歓迎会（合同）、ゲートキーパー研修会（合同）が主な内容であった。ピア・サポート訓練では、「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに、学生同士がサポートしあうためのスキルの訓練を行った。レポートの作成方法については、レポートが作文や小論文とどのように異なるのか、どのように書けば説得的に書くことができるのかについて、アカデミックライティングの技法を解説した。また、コピペがなぜ許容されないのか、適切な引用を行うための知識を解説し、研究倫理に関する知識も深めた。履修生はこの講義について「要約型レポート」を作成した。

後期は、スタディスキル（個別）、ビブリオバトル（個別・合同）が主な内容であった。スタディスキルでは、文章の要約方法、論文の読み方から要約方法について、本学科教員が執筆した論文を題材として学習を行った（山崎他（2005）大学生へのピア・サポート訓練による自尊感情

や自己開示、社会的スキルへの効果の検討)。また、ビブリオバトルでは、スライド作成や発表の活動を通して、プレゼンテーションに向けた準備や発表といったプロセスを経験した。

【SAからのサポート】

ピア・サポート訓練、スタディスキル、ビブリオバトルでは、各ゼミ1名のSAを利用し、活動の補助が行われた。上級生がSAとして授業に参加することで、1年生のピア・サポート訓練の効果が上がり、グループワークがスムーズに進むなど、学年を越えた交流が促進された。

■ 今後の課題

欠席回数の多い学生への対応を考えていく。グループワーク等に積極的に参加できない学生へのサポートについて、SAの適切な活用も含め、具体的に検討する。

■ 特記事項

心理学科教員が作成した冊子（ピア・サポート訓練のテキスト）を1年生に配付した。
新入生オリエンテーションでは学生サポーターが中心となり時間割指導などが実施された。新入生歓迎会は、2年生が主体となり体育館でのレクリエーションを企画・実施し、新入生同士のコミュニケーションを促進し、仲間同士で支えあう風土を築くための活動が積極的に展開された。

人間文化学部 メディア・映像学科

■ 担当者氏名

(代表)：内垣戸 貴之

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数：5（一年次担任：中嶋、田中、安田、久保田、内垣戸）

ゼミの学生数：11 名程度

■ 前期実施内容

- 履修登録など教務関係のガイダンス
- 薬物乱用防止研修
- Zelkova、Cerezo、Office365 等、ICT 環境のガイダンス（遠隔講義への対応含）
- 少人数ゼミ（大学での学びについて、ゼミ学生の交流等）
- 就職に関するガイダンス

■ 後期実施内容

- 教養講座への参加を基本とし、受講についての連絡や情報共有をしつつ、個別に面談を実施し、受講態度や課題への取り組み方などを指導した

■ 前期教養ゼミの成果

受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関係する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。

少人数ゼミと全体ゼミをバランスよく実施し、学生と教員との交流や学生間での交流の機会を設けること、孤独感や孤立感を緩和し、共に学修する仲間がいることを意識させるようにしたことで、課題に取り組み続ける力が身についたように思われる。

■ 問題点, 改善点

学生数が増加傾向にあり、異学年を含めた各学生間のつながりをどのように構築・維持していくのが課題になっている。特に中心的な学習の場となる 19 号館において、少人数ゼミに対応できる環境が十分ではないこともあり、学生同士のコミュニケーション機会をより創出していくための内容検討・環境構築を進めている。

工学部 電気電子工学科

■ 担当者氏名

代表：伍賀 正典

仲嶋 一、歌谷 昌弘、田中 聡、香川 直己、関根 康史、菅原 聡、沖 俊任、伍賀 正典

■ 実施内容

- 1 回目 (4/14) 自己紹介
- 2 回目 (4/21) 数学習熟度試験、授業の受け方、ノートの取り方
- 3 回目 (4/28) 図書館ガイダンス
- 4～7 回目 (5/12～ 6/2) 小グループゼミ
- 8 回目 (6/6) これまでの教養ゼミの協働ワークの紹介
- 9～15 回目 (6/9、6/16、6/23、6/30、7/7、7/14、7/28) グループワーク

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では授業のオリエンテーションと、各自の自己紹介を行った。
- 2 回目では、数学の習熟度確認の試験を実施し、ノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3 回目では、附属図書館に移動し図書館ガイダンスを受講した。
- 4～7 回目では、小グループに分かれて、マイコンを使ったプログラミング、回路のミニ実習を行った。
- 8～15 回目まで、グループワークとしてテーマごとに分かれて協働作業を行った。各班のテーマは、ロボットのキットを用いたイベントの実施や大学祭での展示を目指したガジェット製作のプロジェクトである。ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール、グループでの協調作業を経験した。
- グループワークのチームをもとに、学生有志が成果物を三蔵祭で展示することができた。また、これらの成果を展開することで有志メンバーが 11 月に岡山で開催された、第 34 回計測自動制御学会中国支部学術講演会で登壇発表を行った。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミのグループワークを出発点とし、チームを育成し、学外イベント等への参加を試みている。今回のグループワークにおいても、学園祭での展示を行い、支部学会での学会発表につながった。また、技術系のコンテストへの挑戦も行った。
- グループでの作業は学生間の交流を深める狙いがあり、ものづくり活動を実施した。制作活動のモチベーションには学生間で差が見られ、今後は学生の自主性を尊重しつつも、特定の学生に負担が偏らないような体制を構築していく必要がある。
- 一方で、教養ゼミの受講者数や学生の経験値には年度ごとに差があり、学外発表やコンテスト参加まで展開するためには、教員側で積極的・継続的な支援や段階的な課題設定が必要である。初年次教育として無理なく取り組める範囲を設定し、達成感を得られるようにすることが重要である。今後も、教養ゼミを単なる導入科目として位置づけるだけでなく、学生が大学での学びや研究活動、ものづくり活動に関心を持つきっかけとなるよう、課題内容や活動の展開方法を工夫していきたい。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表・1年担任) 伊澤康一、大畑友紀、酒井要
梅國章、佐藤圭一、島田美和子、都祭弘幸、藤谷秀雄、藤原美樹、山下敬広

■ 教養ゼミの目的

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった文系から理系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。

自分が建築学科での学びにおいて、どのジャンルについて取り組んでいきたいかを決めていくための第一歩として、各教員の専門性を活かした内容の少人数ゼミナール形式によるグループワークによって「建築」が取り組むジャンルや内容についての理解を深め、「建築に対する興味」の掘り起こしのキッカケづくりとしていく。

■ 実施内容

授業は、建築への興味と理解を深めていくために、6～7名の学生を全教員がゼミ形式で分担して担当し、第2～14回までを各ゼミ単位でのグループワークを PBL (Problem-based learning: 課題解決型学習) 形式で進め、学生自らが課題を探すことから取り組みを始めた。

各ゼミ単位での取組みにおいて、次の3項目を共通事項としている。

- 1) 対象フィールドは、松永駅周辺エリアを対象とする。
- 2) 設定した「共通テーマ」を基に、各研究室で取り組む具体的なリサーチ課題を設定する。
- 3) 具体的に取り組む内容は、各研究室の専門性・特徴を生かした視点・内容で設定する。

R7年度も、「地域の課題を解決する」を共通テーマとして、各ゼミで決めた内容について取り組んだ。第1回は、製図教室に集まり、授業ガイダンスと配属ゼミの発表を行い、第2～第14回は各ゼミ単位でのグループワークを実施し、取り組む課題の設定からリサーチ、発表資料準備などに取り組んだ。

第15回は、各ゼミで取り組んだ課題についての発表会を製図室2・3で実施した。発表会は、成果物をまとめたパワーポイントで資料を準備し、発表時間5分、質疑応答3分の発表形式で実施した。

また、2026年2月13日(金)に松永支所で開催された「松永未来会議シンポジウム」において、発表や展示を行った。

■ 教養ゼミの成果

少人数グループワーク形式で課題に取り組んだことで、少人数体制だから可能となる濃密な意見交換・討論や共同作業で実施する資料リサーチや発表資料作りなどの学修活動を展開できた。

■ 課題

成績評価方法として、ゼミ担当による各ゼミ生の取組み評価(50点満点)と教員による各ゼミは票の評価(50点満点)で評価した。今後、さらに学生らの問題意識を高めていくために、学生間での相互評価を評価指標に組み込み、お互いの取組み内容への関心を高める工夫に取組みたい。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表)中道上

尾関孝史、金子邦彦、中道上、池岡宏、谷口億宇、今井勝喜、宮崎光二、滑川裕介、森田翔太、天満誠也、上野貴弘

■ 目的

1年次生に対し初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

授業の実施では、Cerezo を活用した教材配布やアクティブラーニングを行った。具体的な実施内容は以下のとおりである。

- 第1回 04/14 教養ゼミについて、自己管理、倫理、進路と資格取得、履修登録の案内
- 第2回 04/21 教務(履修指導、ポリシー、欠席、休講・補講、試験、GPA など)
- 第3回 05/12 就職(キャリア形成、情報工学科卒業生の進路など)
- ＜教養講座 第1回＞ 05/16
- 第4回 05/19 資格取得(IT系の資格、資格試験合格による単位認定など)、個別面談
- 第5回 05/26 学生生活(薬物乱用防止研修など)、図書館オリエンテーション
- ＜教養講座 第2回＞ 06/25
- 第6回 07/07 島根県授業支援型交流事業「学生の間に取り組むこと」
- 第7回 07/14 情報倫理ビデオ講習、レポートの書き方、プレゼン資料の作り方、タイピング練習
- 第8回 07/28 ITパスポート演習、三蔵祭参加活動について、期末試験の案内
- ＜教養講座 第3回＞ 09/25
- 第9回 10/25 三蔵祭スタッフとして参加(グループ活動、地域交流)
- 第10回 10/26 三蔵祭スタッフとして参加(グループ活動、地域交流)
- ＜教養講座 第4回＞ 10/31
- ＜教養講座 第5回＞ 12/01

■ 成果等

教養ゼミを通じて、大学生生活の効果的な過ごし方や各種大学施設の適切な利用方法について学習した。授業では学生同士のコミュニケーション機会を積極的に設け、学生間の交流促進を図った。また、今後の授業において必要となるICTの基礎、レポート作成技法、プレゼンテーション技術など、学修に不可欠な基礎知識の習得を図った。三蔵祭への参加を通じて、グループ活動における協働の意義と楽しさを実体験するとともに、地域住民の幅広い年齢層との交流を行い、社会人として求められる人間力の向上に取り組んだ。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村純壮・真鍋圭司・坂口勝次・加藤昌彦・田中寿夫・西尾茂・中東潤・小林正明・金谷健太郎

■ ゼミの学生数

クラス全体17名, テーマ別ゼミ(4～5名の4グループ)

■ 実施内容

第1回 薬物禁止セミナー 担当:木村・小林

第2回 基礎教養ゼミ(1) 学科の学修について 担当:加藤

第3回 基礎教養ゼミ(2) 機械工学の歴史 担当:加藤

第4回 基礎教養ゼミ(3) 機械工学の歴史 担当:加藤

第5回 テーマ別ゼミ 4グループで実施

坂口ゼミ 「グリーンエネルギー」の趣旨説明とテーマ設定

西尾ゼミ 海上輸送の優位性と船舶の基本性能について

小林ゼミ グリーンエネルギーについて

金谷ゼミ グリーンエネルギーについて

第6回 テーマ別ゼミ 4グループで実施

坂口ゼミ 情報収集・分析・資料づくり

西尾ゼミ 浮力の発生機構と計算(1)

小林ゼミ グリーンエネルギーについて

金谷ゼミ グリーンエネルギーについて

第7回 テーマ別ゼミ 4グループで実施

坂口ゼミ プレゼンテーションの準備

西尾ゼミ 浮力の発生機構と計算(2)

小林ゼミ グリーンエネルギーについて

金谷ゼミ グリーンエネルギーについて

第8回 テーマ別ゼミ 4グループで実施

坂口ゼミ プレゼンテーション

西尾ゼミ プレゼンテーション&グループディスカッション

小林ゼミ グリーンエネルギーについて

金谷ゼミ グリーンエネルギーについて

第9回 特別講義「企業における開発・設計」:ダイキョーニシカワ(株)

第10回 企業見学 マツダ 10月24日 午前

第11回 教養講座(1) 私たちが人間になること-間と場を育むダイアログ実践の可能性-(矢原 隆行 講師)

第12回 教養講座(2) ボランティアは世界を変える(角田 寛和 講師)

第13回 教養講座(3) ポストコロナの社会規範と社会制度(児玉 聡 講師)

第14回 教養講座(4) コンサートホールの音響とその設計(豊田 泰久 講師)

第15回 教養講座(5) 世界を旅するハンドパン奏者(峯本 貴雄 講師)

■ 教養ゼミの成果等

第1回目は、薬物禁止セミナー、第2回から4回目までは、学科の学修やカリキュラム、機械工学の歴史などについて1年生全体に対して説明を行った。これからの学修に関する重要事項で

あり、1年生にとって有意義だと思われる。その後、第5回から8回目までは、4～5人の4グループに分かれてテーマ別ゼミを実施した。学習意欲を高めるように各担当教員により様々なテーマを扱ったゼミを実施し、専門教育に繋がる内容も多かった。各テーマは1コマであったが、学生の興味・関心を意識してテーマ選定を行った。第9回、第10回は、それぞれ企業講師による特別講演と企業見学を実施した。どちらも学生たちにとっては貴重な体験になったと思われる。

■ 問題点，改善点，次年度までの対応策

本年度は学生数が少なく、各教員による個別ゼミを変更し、2グループでのテーマ別ゼミ形式で実施した。そのため、各テーマは1コマしかなく、学生にとっては物足りなかったかもしれない。急な対応が必要となったため、授業の一部で予定を変更せざるを得なかった。

生命工学部 生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 松崎 浩明

山本 覚、久富 泰資、岩本 博行、佐藤 淳

■ ゼミ数、ゼミの学生数

学生数：20

■ 教養ゼミの目的

生物科学科の教養ゼミは、初年次教育として受講生が高校から大学の学修・生活へスムーズに移行すること、セミナーや大学祭を通して受講生同士及び受講生と教員間で密にコミュニケーションを取ること、目標を立て達成することで自己を成長させること、一般教養を高めることなどを目的としている。

■ 実 施 内 容

<前期>

- 第 1 回 教養ゼミガイダンスおよびオリエンテーションの補足
大学での学修に向けて -「大学での履修」を考える-
- 第 2 回 大学での学修に向けて -「生徒と学生の違い」を考える-
- 第 3 回 学生生活について -どのような学生生活を送るかを考える、自己管理術、年間目標の作成-
- 第 4 回 大学での学修に向けて -学修スキル（講義の聴き方、ノートの取り方）を学ぶ-
- 第 5 回 第 1 回教養講座 矢原 隆行先生 「私たちが人間になること―「間」と「場」を育むダイアログ実践の可能性―」
- 第 6 回 大学での学修に向けて -図書館やネットの利用による情報収集を学ぶ-
- 第 7 回 大学での学修に向けて -学修スキル（リーディング）を学ぶ-
- 第 8 回 大学での学修に向けて -実験レポートの作成法を学ぶ
- 第 9 回 -バイオサイエンスの歴史 -生物機能利用・古典-
- 第 10 回 -バイオサイエンスの歴史 -生物機能利用・現代-
- 第 11 回 第 2 回教養講座 角田 寛和先生 「ボランティアは世界を変える」
- 第 12 回 植物の栽培 -福山大学ワインプロジェクト概説-
- 第 13 回 大学祭学科展示の企画 -過去の展示企画の紹介、過去の展示企画に対する意見・感想-
- 第 14 回 大学祭学科展示の企画 -展示企画を考える-
- 第 15 回 前期の学修・生活を振り返って -前期の総括を行い、後期にどのようにするか考える-

<後期>

- 第 16 回 第 3 回教養講座 児玉 聡先生 「ポストコロナの社会規範と社会制度」
- 第 17 回 夏休みの出来事のまとめ、生物科学科における研究 -大学ホームページ、研究室訪問による研究の調査-
- 第 18 回 生物科学科における研究 -研究紹介の発表原稿の作成-
- 第 19 回 大学祭の準備 -大学祭の展示物の作成-
- 第 20 回 大学祭での展示発表
- 第 21 回 第 4 回教養講座 豊田 泰久先生 「コンサートホールの音響とその設計」
- 第 22 回 大学祭の総括

- 第23回 生物多様性・しくみ
- 第24回 生物多様性・由来生物
- 第25回 キャリア設計 -卒業後の進路の可能性について知る、挨拶、マナー、礼儀を知る-
- 第26回 第5回教養講座 峯本 貴雄先生 「世界を旅するハンドパン奏者」
- 第27回 キャリア設計 -資格取得やインターンシップについて知る-
- 第28回 最近のトピックス
- 第29回 2年次の学修に向けて -将来の夢を実現するための学修計画を立てる-
- 第30回 1年次の学修・生活の総括 -学修・生活を総括し、どのような教養を身に付けたか考える-

■ 成果について

- (1) 教員が受講生と緊密なコミュニケーションを図りながら、「大学での履修」、「生徒と学生の違い」、「学修スキル」の解説、大学における学生生活の指導を行うことで、受講生が高校から大学の学修・生活にスムーズに移行でき、また学修意欲を高めることができた。
- (2) 年間目標を設定することで充実した生活を送れ、目標を達成することで自己を成長させることができた学生がある程度いると思われる。
- (3) 生物機能利用や生物多様性を紹介する講義の受講や生物科学科における研究の調査によって、生物科学に対する興味が増し、学修意欲が向上した。また、最近のトピックスの情報を新聞、テレビ、インターネットのホームページなどから収集する方法と情報の整理方法を学んだ。実際に最近のトピックスに関する情報を収集して、その信憑性を評価した。
- (4) 講義の聴き方、ノートの取り方、リーディング、実験ノート作成、実験データ整理、レポート作成を指導することで、学修スキルとこれらを行う習慣を身に付けることができた。
- (5) 大学祭の学科展示の企画、準備、展示発表によって協調性、自主性、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が向上した。また、教員、友人、先輩との信頼関係を構築できた。
- (6) 挨拶、マナー、礼儀を幾らか醸成することができた。
- (7) 卒業後の進路や将来の夢について考え、これらの実現に向けて、キャリア設計を検討し、2年次の学修計画を立てた。

■ 次年度への課題

- (1) 大学祭の準備で他の学年との連携がスムーズに行えず、準備が効率良く行えなかった。他の学年と合同で準備を行える機会を設け、準備を効率良く行い、協調性、自主性、コミュニケーション力などの育成効果を高めたい。
- (2) アクティブラーニングとして、大学祭の展示発表を実施した。展示発表では、来客者が訪れても、積極的に展示の紹介・説明をできなかった学生が幾らかいた。次年度はさらに積極的に行動するように指導したい。
- (3) 最近のトピックスについては、何回か課題を提出することで幅広い教養を身に付ける効果があると思われるので、提出の機会を設けたい。
- (4) 年間目標をさらに立て易いようにフォーマットを改変したい。

生命工学部 健康栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 菊田安至
石井香代子、菊田安至、津吉哲士、内海好規、松井佳津子、吉田純子、村上泰子、鴻池優佳

■ ゼミ数, ゼミの学生数

学生数: 31 ゼミの学生: 4~5名 (クラスの全体授業と少人数制ゼミを組合わせて実施)

■ 前期実施内容

- 第1回: 大学生生活を始めよう① 学生生活指導 (石井、松井)
第2回: 大学生生活を始めよう② 安全な学生生活について (石井、松井)
第3回: 大学生生活を始めよう③ 大学施設を知る 図書館見学、研究倫理 (菊田、内海)
第4回: 大学生生活を始めよう④ 社会人基礎力 話す力、大人のマナー
(敬語の使い方、恥ずかしくない話し方) (津吉、鴻池)
第5回: 大学生生活を始めよう⑤ 社会人基礎力 電子メール、
SNSの活用(短い言葉で伝える) (村上、菊田)
第6回: 大学生生活を始めよう⑥ 社会人基礎力
文章表現の力(手紙を書いてみよう) (村上、鴻池)
第7回: 大学生生活を始めよう⑦ 社会人基礎力
学校・職場で必要な表現力(答案・レポートの書き方、メモの取り方) (菊田、内海)
第8回: 第1回教養講座: 私たちが人間になること
—「間」と「場」を育むダイアログ実践の可能性— 講師: 矢原 隆行氏
第9回: 管理栄養士をめざす① 臨地実習から考えよう グループワーク (村上)
第10回: つながる(協働)大学祭への参加① 説明と企画 (石井、松井)
第11回: 大学生生活を始めよう⑧ 定期試験と夏休み課題 (石井、松井)
第12回: 第2回教養講座: ボランティアは世界を変える 講師: 角田 寛和氏

■ 後期実施内容

- 第13回: 第3回教養講座: 公衆衛生の倫理 講師: 児玉 聡氏
第14回: 大学生生活を始めよう⑨ 夏休み課題と後期の授業
第15回: つながる(協働)大学祭への参加② 実施計画・役割分担 (石井、松井)
第16回: つながる(協働)大学祭への参加③ 協働して準備 (石井、松井)
第17回: つながる(協働)大学祭への参加④ 協働して準備 (石井、松井)
第18回: つながる(協働)大学祭への参加⑤ 協働して準備 (石井、松井)
第19回: つながる(協働)大学祭への参加⑥ コミュニケーション能力を試す (石井、松井)
第20回: つながる(協働)大学祭への参加⑦ 大学祭を振り返る (石井、松井)
第21回: 第4回教養講座: コンサートホールの音響とその設計 講師: 豊田 泰久氏
第22回: 管理栄養士を目指す② コース制と管理栄養士の仕事 (村上、吉田)
第23回: 管理栄養士を目指す③ 管理栄養士の仕事:
病院、福祉施設ではたらく、会社・企業・法人ではたらく (村上、菊田、石井、
内海、松井)
第24回: 管理栄養士を目指す④ 管理栄養士の仕事:
学校、保健所、スポーツ施設ではたらく (津吉、吉田)
第25回: 管理栄養士を目指す④ 栄養価計算方法1 (吉田)
第26回: 管理栄養士を目指す⑤ 栄養価計算方法2 (吉田)
第27回: 管理栄養士を目指す⑥ 栄養価計算方法3 (吉田)

第 28 回：管理栄養士を目指す⑦ 栄養の研究

卒業研究を視聴し、研究を理解する

(村上、中崎)

第 29 回：1 年を振り返る この 1 年を振り返る、自らの成長と次年度への抱負 (石井、松井)

第 30 回：第 5 回教養講座：世界を旅するハンドパン奏者

講師：峯本 貴雄氏

■ 教養ゼミの成果

新入生がスムーズに大学における学習を開始できるように、管理栄養士課程としての初年次教育と本学科での学びや各コースの特色等をしっかりと理解するための授業を中心とした授業を行った。

前期は、大学生として学びを始めることに重点を置き、授業の受け方やノートの取り方など、大学生活における学修の基本事項を指導した。また、管理栄養士の基礎知識を学び、プロフェッショナルとしての意識付けのスタートアップ授業を行った。

後期は、大学祭を機会にコミュニケーション能力の向上を目指し、大学祭の展示物作成に協同して取り組んだ。上級生の給食実習、臨地実習、卒業研究などを垣間見ることで、これからの学びの予習を行った。また、管理栄養士としての将来を考える授業により、職業選択を見据えた学修を促した。

■ 問題点、改善点、次年度に向けた課題

管理栄養士としての専門職意識の醸成は、将来の職業選択において重要であり、ひいては学修目標の明確化につながる。本学科では、管理栄養課程における学修内容の理解や将来の展望が不十分なまま入学する学生が一部に見られ、これがモチベーションの低下や学業不振を招く要因となっている。こうした状況を改善するため、初年次教育を毎年見直しながら対応している。次年度は、学科のコース制をさらに深化させ、体験的学習の機会を拡大する。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 山岸 幸正

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 15

ゼミの学生数: 9 名

全学生数: 134 名

■ 前期実施内容

- 1) 全体ガイダンス: 教養ゼミの内容説明
- 2) 図書館の利用ガイダンス
- 3) 因島内海生物資源研究所見学
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5) 大学祭の展示企画- 調べ学習の方法、パワーポイントの基本操作
- 6) 大学祭の展示企画-1 グループワークによる役割分担と調べ学習
- 7) 大学祭の展示企画-2 グループワークによる展示の原案作成
- 8) 大学祭の展示企画-3 グループワークによる展示のプレゼンテーション作成
- 9) 大学祭の展示企画-4 各グループによる展示内容の発表
- 10) 前期定期試験の心構え

■ 後期実施内容

- 1) 全体ガイダンス: 後期の履修の諸注意
- 2) 大学祭の準備-1 グループワークによる展示ポスターの作成
- 3) 大学祭の準備-2 グループワークによる展示ポスターの発表練習
- 4) 大学祭の準備-3 各グループによるポスター発表
- 5) 大学祭の準備-4 会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担等
- 6) 大学祭- 展示発表、来場者への対応
- 7) 大学祭- あとかたづけ
- 8) 大学祭の振り返り
- 9) 個人面談-欠席調査など
- 10) 後期定期試験の心構え

■ 教養ゼミの成果等

- 1) 学生生活や教務(授業に関するルール、公認欠席、ゼルコバやセレッソの使い方、定期試験の対応など)の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
- 2) 因島内海生物資源研究所において、海洋生物科学かの教育に活用されている養殖施設、水族館などを見学し、新入生が本学科での学びのイメージを明確化する機会とすることができた。
- 3) 学祭学科展示企画として、本学科の4コースのいずれかに関連するテーマを設定して、学生9名をサブグループとして、1つもしくは2つのサブグループによるグループワークにより、学生が主体となって企画立案を進めることができた。
- 4) グループワークにおいて、調べ学習結果や企画案の情報共有や討議ではセレッソのプロジェクト等の機能を活用することで、効率的に実施することができた。

- 5) 大学祭では、栽培漁業と標識放流、瀬戸内の魚の紹介、海の環境と生態系の特性、海洋哺乳類、藻場や干潟の価値、日本の水族館の紹介、発酵食品や海苔の紹介、健康に役立つ海産物の栄養などの多彩な内容でポスター展示を行い、各グループで調べ学習の成果を発表することができた。
- 6) 来場者に発表を聞いてもらう工夫として、発表を聞くとスタンプを押すスタンプラリー形式にして缶バッジの景品を用意することで、多くの来場者に参加してもらうことができた。
- 7) 大学祭の展示作成や当日を振り返り、問題点、改善点、感想をまとめてもらい、自己評価を行った。

■ 問題点、改善点、対応策

- 1) 来場者は小学生位のお子さんも多く、実験台の上に設置したポスターでは背よりも高く見えないう問題があった。ポスターはパネルを立てかけていてははずすことができたので、説明する学生が適宜ポスターを下して見せることで対応した。
- 2) 前年まで行っていた金魚すくいがないのかという来場者がいた。金魚すくいは娯楽的要素が大きい企画であり、準備や当日の対応にも負担が大きく、本来の教育効果を考えて今回の学習発表形式にしている。
- 3) 各展示発表のスペースが実験台の間で狭く、込み合う時間帯には来場者がポスターの前に行きにくい状況が生じた。また、ポスターを説明する学生以外の学生がポスターの所にいることができずに会場のわきに集まり、手持無沙汰になっている場合があった。ポスターの位置や導線など改善可能か検討したい。

薬 学 部

■ 担 当 者 氏 名

(代表) 山下 純

(担当) 井上 裕文、高根 浩、広瀬 雅一、松岡 啓輔(薬学入門担当)

道原 明宏、大西 正俊、坂根 洋、重永 章、竹田 修三、西山 卓志(クラス担任)

菅 奈奈美、山中 智香(外部講師)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生 92 名に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実 施 内 容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者: 山下 純)

4月21日と5月26日は、外部講師による対面授業を行った。(肌色と黄色の背景)。4月14日、28日、5月7日、14日、19日、7月14日、16日は、学年を3つのクラスに、クラスをさらに3つのグループに分けて、グループ単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(1名)ならびに(または)クラス担任(1名)がチューターとしてクラスごとに指導を行った(青色背景)。6月16日~7月9日は、グループ単位で病院薬剤部及び保健調剤薬局を1施設ずつ訪問し早期体験学習を実施した(緑色背景)。

※日程・授業概要は別紙参照

2 教養講座(担当責任者: 山下純)

第1回教養講座

令和7年5月16日(金)

講師: 矢原 隆行 氏(熊本大学 大学院 人文社会科学部 教授)

演題: 私たちが人間になること ―「間」と「場」を育むダイアログ実践の可能性―

第2回教養講座

令和7年6月25日(水)

講師: 角田 寛和 氏(ちょんまげ隊長ツンさん)

演題: ボランティアは世界を変える

第3回教養講座

令和7年9月25日(木)

講師: 児玉 聡 氏(京都大学 大学院 文学研究科 倫理学研究室 教授)

演題: ポストコロナの社会規範と社会制度

第4回教養講座

令和7年10月31日(金)

講師: 豊田 泰久 氏(益財団法人ふくやま芸術文化財団 理事長)

演題: コンサートホールの音響とその設計

第5回教養講座

令和7年12月1日(月)

講師: 峯本 貴雄 氏(ハンドパン奏者)

演題: 世界を旅するハンドパン奏者

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・ 学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・ 薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・ 情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・ 能動学習のための動機づけ
- ・ 問題解決能力の向上
- ・ 挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点，改善策等

- ・ 学生のアンケート調査によって、改善を行っている。

2025年度「薬学入門Ⅰ」

4月2日
(水)現在

日曜	4月14日(月)	16日(水)	21日(月)	23日(水)	28日(水)	5月3日(月)	5月7日(水)	12日(月)	14日(水)	19日(月)	21日(水)	26日(月)	28日(水)	
第1週	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	予備日	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	予備日	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	こどもの日 Z1付キック室1&2	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	ウイナル杯団体戦 (五羽が赤衣より羽生 通過があります)	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	予備日	34号館2階 研修室1&2	予備日	
3週	P1, P2, P3		賛助会員 P1, P2, P3		P1, P2, P3		P1, P2, P3		P1, P2, P3	P1, P2, P3		山中賢 P1, P2, P3		
4週	P1, P2, P3		賛助会員 P1, P2, P3		P1, P2, P3		P1, P2, P3		P1, P2, P3	P1, P2, P3		山中賢 P1, P2, P3		
5週					P1, P2, P3		P1, P2, P3		P1, P2, P3					17
第2週	「今心にあること(巻 頭、第1回、第2回)」に ついてSOD(KJ法)		【コミュニケーション・ コミュニケーション の強化】行動学習のため の強化と併せて ついて書く学習 をする				「人にやさしい漢・ 美しい漢(漢の漢字や 分欄)」について SOD(KJ法)		「病院・保健福祉課 職員の業務の効率化」 についてSOD(イ メージマップ)	【第1回】 1. 自身のマナーを上げ るための学習をする。 2. 自身の業務内容につ いて学習をする。		【マナー・コミュニ ケーション・業務 の効率化について】 1. 自身のマナーを上げ るための学習をする。 2. 自身の業務内容につ いて学習をする。		

日曜	6月2日(月)	4日(水)	9日(月)	11日(水)	16日(月)	18日(水)	23日(月)	25日(水)	30日(月)	7月2日(水)	7月7日(月)	9日(水)	14日(月)	16日(水)	21日(月)	23日(水)
第3週	予備日	予備日	中間試験期間 6月9日(月)～13日(金)										34号館2階 マルチ Z1付キック室1&2	34号館2階 研修室1&2 Z1付キック室1&2	34号館2階 研修室1&2	予備日
3週													P1, P2, P3	P1, P2, P3		
4週													P1, P2, P3	P1, P2, P3		
5週													P1, P2, P3	P1, P2, P3		
第4週													P1, P2, P3	P1, P2, P3		

【注意】 病院薬剤部および保険薬局での早期体験学習は、赤枠の6/16～7/9の中から、1日ずつで実施します。具体的な日程は通って連絡します。
「予備日」には、天候などの理由で授業が実施できなかった場合に、セレッソからあらかじめ変更したことを周知したうえで、代替の授業が実施されることがあります。

大 学 教 育 セ ン タ ー